

# 六根清淨被

あまてらしまずめおおかみ のたまわ

すなわ

あめがした

みたまもの

すべか

天照皇太神の宣く人は則ち天下の神物なり 須らく

しず

つかさど

すなわちかみとかみど

もとのあるじ

静め謚まることを掌るべし 心は則ち神明の本主たり

わがたましい

いた

このゆえ

もろもろ

ふじょう

心神を傷ましむることなかれ 是故に目に諸の不浄を

見て心に諸の不浄を見ず 耳に諸の不浄を聞きて心

に諸の不浄を聞かず 鼻に諸の不浄を嗅ぎて心に諸の

か

不浄を嗅がず 口に諸の不浄を言いて心に諸の不浄を

言わず 身に諸の不浄を触れて心に諸の不浄を触れず

こころみ

意に諸の不浄を思いて心に諸の不浄を想わず 此の時

くまひら

ひら

のり

かたち

こと

きよ

に清く潔き偈あり 諸の法は影と像の如し 清く浄けれ

きたな

このみ

な

とり

う

ば仮にも穢きことなし 説きごとを取らば得べからず

みなはな

このみ

な

皆花よりぞ木実とは生る 我が身は 則ち六根清淨なり

ゆえ

ごまう

しんくんあんねい

六根清淨なるが故に 五臓の神君安寧なり 五臓の神君

どうこん

安寧なるが故に 天地の神と同根なり 天地の神と同根

れい

なるが故に万物の霊と同体なり 万物の霊と同体なるが

な

まひら

故に 為す所の願いとして成就せずということなし 無上

れいほう

しんとうか

か

じ

むじょう

靈宝 神道加持